鉱山録 vol.21
The correspondence of Noboribetsu City Nature Center

ゆきン子の路、ふり返れば
樺のこずえが風にゆれる
自然は営みの中で私たちに
恵みを与えてくれる

photo & text: 松原 條一

鉱山録（こうざんろく）

21 Jan. 2008
登別市ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 登別自然活動支援組織「モモンガくらぶ」
〒059-0021　登別市鉱山町8-3　登別市ネイチャーセンターふぉれすと鉱山
TEL/ 0143-85-2569　FAX/ 0143-81-5808
E-mail: kouzan@npo-momonga.org　URL: http://npo-momonga.org/

特集

これがふぉれすと鉱山の全貌だ!!

ふぉれすと鉱山といえば、「自然体験の施設」というイメージを持つ人が大多数であろう。しかし、実はそれだけではないようだ…。６年前のオープン以来、ふぉれすと鉱山は「進化する生き物」のごとく、利用者のニーズとともに変容してきた。鉱山の自然を舞台に、いくつもの能力を持ち合わせながら進化してきたこの「生き物」の全貌を、今、明らかにしてみよう。

1 環境保全 「これからもず〜っと鉱山の自然をつかいたいから、やるべきこと」

ふぉれすと鉱山の展開するすべての事業のベースとなるのは、コレ！欠かしてはいけない、いわゆる調査活動です。HPのコーザン自然百科にデータを公開しています（http://momonga.dee.cc/）。また、この冬ボランティアのみなさんも参加できるような調査イベントを企画していますので、お楽しみに♪

○猛きん渡り調査2007
　毎年カムイヌプリの頂上で、秋のワシやタカの渡りについて調査を行なっています。

○鉱山町フラワーソン
　毎年鉱山のフィールドで、初夏の花の開花状況の調査を行なっています。

○その他：生き物しらべ、森しらべ、歴史しらべ、里山づくり計画

3 人材育成 「自分のステップアップも楽しめちゃう」

ここふぉれすと鉱山は、利用する人が望めば望むほどに、いろんなチャンスが登場します。「○○したい」「○○やろう」。しかし次にまっているのは…「あっ、いいね。じゃぁお願いね。やって」…えっ!?、と思いきやそんな会話のなりゆきでいつの間にか自分が取り組むことに…。そこで…鉱山では、それに備えるための？学びの機会（ウソかも）と、純粋に自然のことなどを学ぶ機会、そんな自分のためのステップアップ講座があったりもします。

○コーザンネイチャーガイド養成講座…自然のこと、鉱山のことを学び、それを人に伝えていく力を身につけていく講座です。

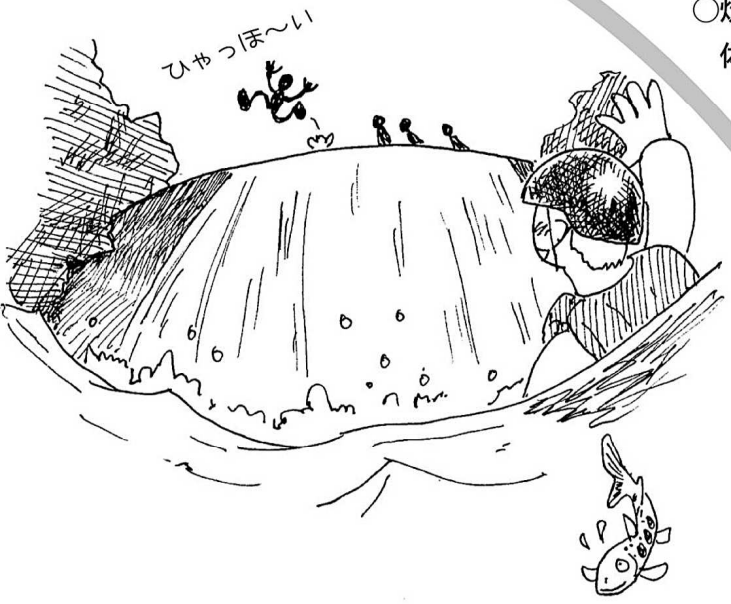
○インターンシップ…ふぉれすと鉱山でのお仕事体験や本気の職場体験を行っています。

この他、救急救命講習やリスクマネジメント講習などのボランティアリーダー養成講座や技術力アップのための指導者養成講座もあります。

「まずは、鉱山の自然をココロでカラダで感じよう！」

ふぉれすと鉱山は自然への入り口。子どもから大人まで、それぞれに合わせたプログラムを通して自然の楽しさ、すばらしさを伝えています。家族単位から、学校の宿泊学習、子育てサークルなどなど、プログラムを提供する人々も様々です。スタッフから提案するだけでなく、参加される皆さんやボランティアの皆さんにも主体的に関わってもらいながら、プログラムを提供しています。もちろんプログラム以外でも、いつでもふらっと遊びに来てＯＫですよ。

2 自然体験活動



○森のサロン
未就園児の親子が対象。自然とのふれあいを通してステキな親子関係をはぐくみます。

○炊事遠足サポート
体中でおもいっきり自然を楽しむ一日を過ごします。

○登山教室
のんびり自分のペースで。初心者もOKのゆったり山登り。

○その他：森のようちえん、夏・冬休みキャンプ、遊歩道、もんきーパーク（自由に遊べる広場）

4 異業種間ネットワーク

「自然のこと＋α（アルファ）」

自然って大事、とか、自然の中で遊ぶのはいいことだよ、とか、自分たちが好きなこと、いいと思っていることを強調しすぎると、どうしてもいろんな大事なことが見落とされちゃうんじゃないかなぁ、と考えてしまう。それは、最近になって、いつもとは違ういろんな人といろんな目線で「ふぉれすと鉱山」のことを眺めたりすると、もっといろんな可能性に気が付くことができるから。そして、急がば回れ、じゃないけど、最終的には自分たちの活動のプラスになっていることが本当に多いから。

○１・８プロジェクト…室蘭工業大学の市村先生と建築学コースの学生・院生のみなさんと進めるもっといい施設づくりのための協働プロジェクト。

○グリーンレース…健康でありたい、そういう願いから取り組まれることの多い体力増進の活動を自然の中でやってみないかい？という体育会系のマラソンプログラム。

この他、子育て支援ネットワークの構築やモモンガくらぶではまちづくりに関わるネットワークづくりも行っています。

ふぉれすと鉱山は平日教室になる。

～学校の環境教育プログラム～

主に休日にふぉれすと鉱山にやってくるあなた、「ふぉれすと鉱山って、平日は誰が使ってるのかしら？」と思ったことはありませんか？確かに休日に利用する方は多いんですけど、平日だって実はいろんな方が利用しているんです。その中の一つが「学校」です。

登別市の小中学校を始め、近郊の室蘭や白老、札幌圏の北広島や札幌などから、宿泊学習や総合学習などで利用していただいています。単に「宿泊施設」ということだけでなく、「自由な発想ができる環境がある」ということにあります。

○オーダーメイドプログラム

ふぉれすと鉱山の学校プログラムの真髄は「オーダーメイド」。決まったプログラムは用意しておらず、学校の思いに合わせて毎回違ったプログラムを先生達と一緒に作りこんでいきます。

「自然の中で思いっきり心を解放させたい」「理科の授業につながるような活動をしたい」「自然体験活動を通して子ども達の人間関係を養いたい」…。それに合わせて、これまで実に様々なプログラムが生み出されてきました。

○これからの学校プログラム

これからも、ふぉれすと鉱山は学校の先生達と協力しながら、さらに魅力的で斬新なプログラムを開発していき、それをどんどんオープンにしていきたいと思っています。「ふぉれすと鉱山は最高の教室！」そんな評価がもらえるように。

○利用者会議3　学校編　1/11に開催

先生方を招いて、今年のこと、来年のこと、いろいろご意見いただきます。

例えばこんなプログラム

学校からの注文

対　象：小学校5年生　12名

先生の思い：「子ども達が自分で決断したり、仲間と一緒に課題を解決していく場を体験させたいんです。学校ではなかなかそういう機会がないから…」

→出来たプログラム：コーザンジブンツアー

「2日間の宿泊学習のうち、2日目にやることを子ども達自身で決めてみよう。」

day1 am　導入1「鉱山町ロケハンツアー」

まずは下見。スタッフの案内で鉱山町の自然を巡り、ジブンツアーのイメージを膨らませます。

day1 pm　導入2「ジブンツアーに出かけよう」

スタッフと先生がプロデュースしたいくつかのツアーから自分のやりたいことを選択。他の子とは相談しません。「誰としたいか」ではなく「何をしたいか」で決断してもらうためです。

day1 nite　本体「自分たちでジブンツアーをつくろう」

このプログラムのキモ。

翌日何をするか、それに必要な準備は何か、自分達で話し合って決めます。話し合いのルールは「多数決しない」「じゃんけんしない」「全員が納得する」の３つ。先生も口を挟みません。時にはケンカになりながらも、何とかプランを作り上げていきます。いつも顔を合わせている友達ですが、いつもと違う顔が見えてきます。

day2 am　まとめ「自分ツアーに出かけよう」

みんなで決めたジブンツアーを実施。苦労してみんなが納得するように作ったプラン、楽しかったね。

～ふぉれすと鉱山になって～

大学に教員として着任して間もない頃，釣り場を探す中，鉱山周辺を初めて知った。
貯水池から鉱山周辺に至る道程は，いわゆる道外の人が思う北海道らしいスケール感があり，幌別川沿いの地層や，如何にも釣人にはおいしそうな環境は感動的であったことを思い出す。

「ふぉれすと鉱山との接点」は，ある学生と自然体験に関わる研究に取り組む中，身近な自然体験施設の存在を知り，学生に「見学へ…」というのが，「初めて」のことであった（間接的であるが）。

次の「接点」は，上記以上に直接的であった。「家族」がふぉれすと鉱山と接触したのである。
そして知らぬ間に…

「家族」は「ふぉれすと鉱山になって」いた。

その頃から，家族のテリトリーとなった「ふぉれすと鉱山」は，私が干渉すべきでない空間として捉え，意識的・無意識的に接触を控えてきた。
しかし以降，私の知る多くの人たちが「ふぉれすと鉱山」と接触し…
そして…

「皆」が「ふぉれすと鉱山になって」いった。

一人の教え子O君は，就職先を模索する中，鉱山のイベントに訪れ，「ふぉれすと鉱山」と接触することになり，それを契機に自然体験に関わる仕事を目指し，今年春に鉱山の非常勤スタッフとなった。
そう…

「彼」も「ふぉれすと鉱山になって」しまったのである。

その教え子の頼みのもと，このプロジェクト（PJ）が始まることとなった。
そしてなぜか…

「私」も「ふぉれすと鉱山になって」しまうようである。
（PJで一緒に協働している研究室学生もまた…。）

私の中で，今回のPJを含め，「ふぉれすと鉱山」との関係の「理想」はまだまだイメージしきれていない。
すなわち，私にとっての…「ふぉれすと鉱山になって」しまう…とはどのようなものなのか…。
ただ，多くの「ふぉれすと鉱山になって」しまった人々も，それぞれの経験や特技等を活かし，また，様々な模索を行い，かつ，それを「楽しんでいる」のであろう。
私もその流れに従うのみなのだろうと思っているところである。

text:　市村 恒士
（室蘭工業大学建設システム工学科講師）

学生時代からサーフィンにハマり、波を求めて室蘭の地にやって来て７年目。今年度から自分の研究室を持ち、忙しくも充実した日々を過ごす。体育会系の酒好き人間。酔うと学生に関節技をかけるクセもあるが、その面倒見の良さから学生達に慕われている。専門は都市緑化計画など。

what's 1.8 Project

いっちはっち・ぷろじぇくと　【1・8プロジェクト】

2007年夏、ふぉれすと鉱山「遊びの森」の整備計画を進めるために…ふぉれすと鉱山と室蘭工業大学の市村先生と建築コースの大学院生・学生のみなさんとの協働事業がスタートしました

カマンペツ〔Kama（岩盤） un（そこにある） pet（川）〕：ふぉれすと鉱山のすぐ近くを流れる清流

一服目

久しぶりの中学時代のクラス会、遠く離れた場所での開催である。そこは小中高を過ごしたところで、今の自分の創られたところでもある。ひとり車移動の約６時間、幼き頃の○○くんや△△ちゃん、みんなの顔を思い浮かべながら、そして駆けまわった山や川、その移動時間が長く感じられることはなかった。決して楽しいことばかりの時代ではなかったが、頭に浮かぶのは楽しいシーンばかり、きっと運転しながら一人、笑顔がこぼれていたことだろう。

私たちがフィールドとして活用させていただいている鉱山町は自分の育ったところによく似ている。そこは炭坑の街だった。洗炭のため真っ黒になった川の流れ、多くの木を伐り倒して坑木をつくったため、また、露天掘りによって山は坊主状態、そしてとても高いズリ山が何カ所にも存在していた。

いくつもあった炭鉱は既に閉山となっていて、学舎は壊され、その跡地に立派なホテルが建っている。温泉ホテルである。

原体験の地は観光客が訪れる地に変遷してしまっていたのである。幼い頃の街並みは、わずか数件残っている家屋から連想することにのみとどまる。それでもよく遊んだ川は澄み切っており、木を切り出した山は緑に茂っている。まさに森林再生の真っ最中なのである。鉱山町も今は立派に再生（中）し、自然の中で充分楽しませていただいている。しかし、過去には「我が街」と同じ自然破壊の歴史を刻んでいたのである。

自然の偉大な再生力に敬意を表し、私たちのわがままを優しく抱いてくれる懐の深さに感謝していかなければならない。自然の包容力、寛容さに甘えることなく、「人と自然」の正しいあり方をいつも頭に置きながらつきあっていかなければ、と想う日々である。

2007年11月16日記　松原 條一

■スタッフルームへようこそ

ふぉれすと鉱山スタッフのお部屋です。ここは普段スタッフが考えていること、感じたことを好きなように表現する場。鉱山で会うのとはちょっと違ったスタッフたちの横顔をお楽しみ下さい。

MJ days

お茶しませんか？

ふぉれすと鉱山ボランティアのコラム①

ふぉれぼらこら

ＫｏＮＧって…?!　text: きんぐKoNG　兼子 浩二

皆さん、「ＫｏＮＧ」（コング）という名前を耳にしたことがありますか？

「ＫｏＮＧ」とは、コーザンネイチャーガイドの愛称です。

ＫｏＮＧの認定資格者のみが持つことが許される「オフィシャルハンドブック」にはこう書かれています。

「ＫｏＮＧ（Kozan Nature Guides）とは、鉱山町の自然を教育的な視点に立ったうえで、十分な情報と技術、情熱を駆使して伝え、案内することのできる人、またはその集まりのことである」

と難しいことはさておき。　現在、認定者は１期生からから3期生25名の認定者がいます。　今年度は、6月から演習を含め計7回の講習を終えてまもなく認定式を迎えます。
鉱山の自然・歴史を皆さんに知っていただき鉱山をもっと好きになっていただきたい。
そんな思いで活動しています。

今年度からは、ＫｏＮＧ主管事業としてスペシャルウィークなど各種事業を中心となって実施してきました。

それぞれ、得意分野があったり多彩な技術・知識を持っていたりします。
とはいっても、まだまだ未熟。これから、いろいろな経験を積んで少しずつ成長していきたいと思っています。

私自身も、まだまだ未熟者でも鉱山町の自然が好きでこの自然をいつまでもこのままで、
そして、もっと沢山の人に知ってもらいたいと思っています。

皆さん、ふぉれすとでＫｏＮＧのメンバーを見かけたら気軽に声をかけてください。
鉱山町の魅力をご紹介いたします。

もちろんピカソも
画題にします。
（うそ）

えんめぐの
もの想うコラム

エンドのひるね

大橋くんの
学びの日々

はっちで

最近、涙もろい。と思う。

先日、友人が結婚した。そのお祝い会に出席したのだが、
新郎新婦の登場で涙してしまった。
そして、新婦さんを娘のように思っている方の涙を見て、
裏方で支えてきた方々の涙を見ても
思わず、涙してしまった。

また、昨日、自分の子どもと真剣に向き合って、
子どもの心の声を聞こうとしている母の姿に
涙してしまった。

しまいには、テレビに出てくるおじいちゃんの皺を見ても
涙してしまう始末だ。

そして、何っていうことはないのだが、
めちゃくちゃ涙したい夜もくる。
そんな日は、心のアンテナがキャッチしやすいのか、
響く音楽を聴くだけで、
なにげないラジオやテレビの一こまや一フレーズだけで、
涙したりする。
そんな日は覚悟を決めて、読む本がいくつかある。
谷川俊太郎氏や手塚治虫氏、
漫画や絵本、
そんな日の翌日は、顔や目はめっぽうはれぼったいが、
気持ちはとってもスッキリしている。

女性にとって、涙するという行為は、武器ではなく、
とても大事なことなのだ。

だから、年齢を重ねると涙もろくなる/
というのは、褒め言葉と思うことにしよう。

いつでも、とっておきの時に、泣けるオンナでありたい。と思う。

#1　涙は、オンナの武器!?　　text: 遠藤 潤

人・自然．．．ふぉれすと鉱山に教えられたこと

text: 大橋祐介（はっち）

「長いようで短かったなぁ．．．」
5月から10月までの期間はあっという間に過ぎていきました。
夏の間なんて、ホント疾風のように駆け抜けていきました。そして、ほぼ毎日川に行きました。やはり川遊びは楽しいのか、子どもから大人まで透き通った青色の川ではしゃいでいる光景が目に焼き付いています。
また、初夏のカラマツにからみつく満開のツルアジサイに見とれる人や、晩秋の黄色や橙色、赤などの見事な紅葉に目を見張る人など、自然のきれいなものに感動している人と出会えることもできました。
楽しいことは楽しい。きれいなものはきれい。自然の中では子どもも大人も関係なしに、そういう気持ちが全面に出ています。やっぱりいいんですよね、自然って。
僕も半年間鉱山町で暮らして、毎日鳥の声を聞いたり、花や木が毎日違う顔をしているのを見たり、夜には満天の星空が見られたり、夜にコウモリの声が聞こえたりと、常に自然を感じられる空間でたくさんの感動を得ることができました。
人と自然、そして『ふぉれすと鉱山』に感謝です。

今は、自然体験指導者になるべく、札幌で勉学に励んでいます。（はっち）

■KOUZAN EVENTs

鉱山で行われるイベントチェック！

1月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

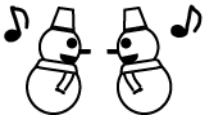
3月

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

年末年始の休館日　2007年12月31日～2008年1月5日

1月	11日	利用者懇談会（3）　学校編
	12日—14日	冬のコーザンまつり
	17日	森のサロン
	19日—20日	わんぱくキャンプ
	25日	たまにはアウトドアライフ（3）
	26日	ながぐつレンジャー・もりもり森ン子くらぶ
	26日—27日	もりのようちえん
2月	2日—3日	森のサロン
	7日	冬のハイキング
	10日	歩くスキー
	16日	子育て支援フォーラム
	17日	里山づくりステップアップフォーラム
	20日	歩くスキー
	23日	ながぐつレンジャー・もりもり森ン子くらぶ
	23日—24日	もりのようちえん
3月	1日	歩くスキー
	5日	たまにはアウトドアライフ（4）
	22日	ながぐつレンジャー・もりもり森ン子くらぶ
	22日—23日	もりのようちえん

イベントPICK UP



2008.1.12、13、14

冬のスペシャルウィーク

ふぉれすと鉱山全部が遊び場！歩くスキー、つるつる広場、雪だるま作り、そり滑り、動物の足跡探し、木工クラフト、たき火などなど。何でも自由に遊べるよ。食堂やカフェもオープンします。お楽しみに！

■KOUZAN INFORMATIOIN

ふぉれすと鉱山ご利用のご案内

開館9:00～17:30　　入館料・無料

休館日：4月、11月～3月は毎週月曜日／5月～10月の間は第4月曜日

（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります）

・木工室・森の図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、 歩くスキー、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

・ふぉれすと鉱山は、宿泊型体験施設です。宿泊を希望される方は、下記連絡先へお問い合わせください。

・森のおうち、森トンハウス、ツリーハウス（かぜのいえ）のご利用も可能です。

・その他ご不明な点は、下記連絡先へ。

鉱山録

EDITOR'S LOUNGE

新年明けましておめでとうございます。昨年もたくさんの皆さんに利用していただいて、ただただ感謝でございます。さて、どうにも雪の少ないこの冬。雪かきは楽ですが、せっかく鉱山にいるんだから、やっぱり雪あそびがしたいですね。子どもたちとの雪遊びはもちろん、歩くスキー、山スキー、スノーシュー・・・。すでに脳内一面白銀世界ですよ。（み）

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.21
発行：2008年1月
発行所：〒059-0021　北海道登別市鉱山町8-3
電話番号：0143-85-2569　FAX: 0143-81-5808
E-Mail：kouzan@npo-momonga.org
URL：http://npo-momonga.org/